

A 国語問題

注意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべて黒鉛筆または黒のシャープペンシルで記入することになっています。
黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷ついたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のように黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
○ 1
○ 2
● 3
○ 4
○ 5

(3と解答する場合)

※ 大問一・二については著作権の関係により掲載できません。
引用した文章は次の通りです。

- ・大問一 多和田葉子『地球にちりばめられて』
- ・大問二 久野愛「感じる歴史」

三 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答题紙に書くこと)

侍従大納言成通卿、そのかみ、九歳にてわらはやみし給ひけり。(1) 年ごろ祈りけるなにかし僧都とかやいふ人を呼びて、祈らせけれど、かひなく発りければ、父の民部卿ことに嘆き給ひて、傍らにそひ居て、見あつかひ給ふ間に、母君といひ合はせつつ、「さりとして、いかがはせむ。このたびは異僧をこそ呼ばめ。(4) いづれかよかるべき」などのたまひけるを、この兎臥しながら聞きて、民部卿に聞こえ給ふ。(5) 「なほこのたびは僧都を呼び給へか」と思ふなり。その故は、乳母などの申すを聞けば、まだ腹の内なりける時より、この人を祈りの師とたのみて、生まれて今九つになるまで、事ゆゑなくてはべるは、ひとへにかの人の徳なり。(7) それに、今日この病ひによりて、口惜しく思はんことのと不便にはべるなり。もし異僧をよび給ひたらば、たとひ落ちたりとも、なほ本意にあらず。況んや、必ず落ちむこともかたし。さりとも、これにて死ぬるほどのことは [] はべらじ。(8) 我をおぼさば、幾度もなほこの人をよび給へ。つひにはさりともやみなむ」と苦しげなるをためらひつつ聞こえ給ふに、民部卿も母上も、涙を流しつつ、あはれに思ひよせたり。

「をさなき思ひばかりには劣りてげり」とて、又のあたり日、僧都をよびて、ありのままにこの次第を語り給ふ。「隠し奉るべきことにはべらず。御事をおろかに思ふにはあらねども、かれがなやみ煩ひはべるけしきを見るに、心もほれて、おぼされむことも知らず、しかしかのことをうちうち申すを知りて、このをさなき者のかく申しはべるなり」。涙を押しのごひつつ語り給ふに、僧都おろかにおぼされむや。(11) その日ことに信をいたしき。泣く泣く祈り給ひければ、きはやかに落ち給ひにけり。(注3)

この君は、をさなくより、かかる心を持ち給ひて、君に仕うまつり、人にまじはるに付けても、事にふれつつ情ふかく、優なる名をとめ給へるなり。すべて、いみじき数奇人にて、世の濁りに心をそめず、いもせの間に愛執浅き人なりければ、後世も罪浅くこそ見えけれ。(注4)

〔発心集〕による

(注) 1 わらはやみ——熱病で、今のマラリアにあたるかという。

2 落ちたり——ここでの「落つ」は、熱や憑きなどが取れる、平癒する^{へいゆ}という意味。

3 きはやかに——みごとに。

4 数奇人——風流人。世俗のことよりも、風雅・芸術を重んじる人。

問

(A) ——線部(1)の現代語訳を五字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(B) ——線部(2)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 この二、三年 2 適齢になるまで 3 年齢にあわせて

4 長年 5 いつもずっと

(C) ——線部(3)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 世話を受けられている

2 もだえ苦しんでいらつしやる

3 直にご覧になってとまどわれている

4 見ていられなくなられる

5 看病なさっている

(D) ——線部(4)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 どのように頼むのがよいだろう。 2 誰を呼ぶのがよいだろう。

3 いつ来てもらうのがよいだろう。 4 誰を使者にするのがよいだろう。

5 どこに招くのがよいだろう。

(E) ~~~~~線部(a)～(c)はそれぞれ誰に対する敬意を表しているか。最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

- 1 成通
- 2 僧都
- 3 民部卿
- 4 母君
- 5 異僧
- 6 乳母

(F) 線部(5)の現代語訳として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 やはり
- 2 いっそのこと
- 3 もう一度
- 4 どうしても
- 5 仮に

(G) 線部(6)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 良好な師弟関係でありましたのは
- 2 無事でありましたのは

- 3 すなおに成長できましたのは
- 4 迷惑をかけずに過ごせましたのは

- 5 この病が悪くならずに済みましたのは

(H) 線部(7)は誰のことをさしているか。最も適当な人物を、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 成通
- 2 僧都
- 3 民部卿
- 4 母君
- 5 異僧
- 6 乳母

(I) 空欄□に入る言葉として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 え
- 2 すべからく
- 3 よも
- 4 やうやう
- 5 やをら

(J) 線部(8)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 私を大人として扱ってくださいるのならば

- 2 私の意向を自己責任として認めてくださるのならば

- 3 私の病状をご理解くださるならば

- 4 私と僧都との前世からの因縁を信じてくださるならば

- 5 私のことを愛しいとお考えくださるならば

(K) 線部(9)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 そうは言っても引き受けるでしょう。

2 立ち去って辞めてしまおう。

3 誰の祈りであっても満足できるでしょう。

4 いくら何でも治るでしょう。

5 それでも病にかかってしまおうでしょう。

(L) —— 線部(10)について。これはどのような状態を述べたものか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 病を押して父と会話したことで、成通が力なくぼんやりしている状態。

2 成通が僧都の力量を過大評価し、信じ込んでしまっている状態。

3 母君が、病に苦しむわが子をひどく心配している状態。

4 わが子を思うあまり、民部卿夫妻が冷静にものを考えられなくなっている状態。

5 成通のために、僧都が熱心にお祈りをしなければと覚悟している状態。

(M) —— 線部(11)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 おろかだとお間違いになるはずはない。

2 おろかだとお思いになるにちがいない。

3 おろそかにお思いになるはずがない。

4 おろそかにお思いになるにちがいない。

5 おろかにもお間違いになるはずはない。

(N) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 成通は九歳のころ病気になる、自ら僧を呼び寄せて祈らせたがなかなか快復せず、成通の両親はとても心配した。

ロ 両親は、「なにがし僧都」ではない僧にわが子の快復を祈らせようとしたが、成通はそうすることの影響

を見ずえて、それを受け入れなかった。

ハ 「なにがし僧都」に祈らせることにこだわるわが子の幼稚さを感じた両親は、それを僧都本人に伝え、どうするか判断してもらおうことにした。

ニ 「なにがし僧都」は、自分を大切にしてくれる成通のために、心をこめて成通の快復を祈り、みごとにそれをなし遂げた。

ホ 成通は子どものころから情け深く、風流人で、清らかな心をもっていたが、男女の愛情を解せぬ人へと成長したのは望ましくないことであった。

【以下余白】